

19th

新 響

新 交 響 楽 団

第 19 回 定期演奏会



THE NEW SYMPHONY ORCHESTRA

19 th Subscription Concert

指揮 芥川 也 寸 志

Conductor YASUSHI AKUTAGAWA

I 交響詩「前奏曲」
Symphonic Poem "Les Préludes"

F. リスト

F. Liszt

II 交響曲 第101番 ニ長調「時計」
Symphony No. 101 D major "The Clock"

ヨゼフ・ハイドン

Joseph Haydn

1 アダジョ——プレスト

Adagio Presto

2 アンダンテ

Andante

3 メヌエット・アレグレット

Menuetto·Allegretto

4 ヴィバーチェ

Vivace

III 組曲「展覧会の絵」

ムソルグスキー = ラヴェル編曲

Mussorgsky — Ravel

プロムナード

Promenade

1 こびと

Gnomus

プロムナード

Promenade

2 古城

Il vecchio castello

プロムナード

Promenade

3 テュイルリー

Tuilleries

4 ビドロ

Bydlo

プロムナード

Promenade

5 殻をつけたひななどのパレエ

Ballet de poussins dans leurs coques

6 サムエル・ゴールドテンベルクとシュムイレ

Samuel Goldenberg et Schmuyle

プロムナード

Promenade

7 リモージュ

Limoges-le marché

8 カタコンバ

Catacombae-Sepulchrum romanum

9 鶏の足のうえの小屋

La cabane sur des pattes des poule

20 キエフの大門

Le grande porte de Kiev

新交響楽団第19回定期演奏会

日 1970年4月13日(月) 7時
比
谷
公
会
堂

ご あ い さ つ

今晚は。ようこそ私共の演奏会においで下さいました。

私共新交響楽団は、これまで新交響楽協会の一員として、“新日本交響楽団”，“新交響吹奏楽団”と共に、1966年、東京労音から独立して以来、お互の自主性を尊重しつつ、互に協力をして活動して参りましたが、このたび、日頃私共の考えている理念をさらに、おしすすめるためにこの協会組織を発展的に解散することにいたしました。

これは、一つには、在来の協会の運営形態が各団統一の規則のもとに規制されていながら、その実何の拘束力ももたず、むしろ各団の独立性をのみ重視していることにもあったのですが、時の流れとともに、各団の活動は、お互に他の助けを借りずに演奏会を行なえるまでに成長してきたことが大きな原因となっています。すなわち、ただがむしゃらに集まって何がなんでも音楽をすればいい、演奏会が開けさえすればよいという自己満足の状態から、もっと納得のゆく演奏をしたい、聴集に対し音楽に対する情熱だけでなく、それに伴う演奏の出来、自分達の演奏に対する責任というものを意識しだしたからにはありません。これは裏返せば、在来の協会のようないわば閉鎖的な団体ではその活動に限界があつて（たとえば、聴衆が演奏に参加することはできませんが、時と所を変えれば、さっきの演奏者が聴衆になり聴衆が演奏者になることは可能ですし）、演奏者も聴衆も、やりたい曲があつてもできないし、聴きたい曲があつても聴けないわけです。現在東京都には大学を除いて7団体ほどのアマチュアの社会人のオーケストラがありますが、これが別々に似たような自己満足のための演奏会をやつていてお互に知らず、聴衆は同じ曲ばかり聴かされているとは何とばかりかしいことでしょう。ただ何かを聴きたいというならプロのオーケストラで安い入場料できけるものが沢山あります。テレビもステレオもあります。

楽器を手にする人はいつでも希望の合奏に加わることができる、まだ楽器を知らない人はここを通じて音楽に親しみ、能動的に音楽することを楽しめるような、社会全体が、音楽提供者と聴衆に別れてしまわないようにならないものではないでしょうか。

私共の目標は大きすぎるかもしれませんが、まずは新響の活動が団員だけの自己満足に終らぬよう、一諸に演奏を楽しんでもらえる聴衆が少しでも増えるよう、もっと大きな結合体の一部としての機能が果せるよう、他の団体に働きかけ、一搬の音楽愛好家といわれる人達へも協力をよびかけてみたいと思っています。

そのためには運営形態も未熟ですし、メンバーも足りませんし、しなければならないことも沢山ありますが、温かく見守って頂くと共に、是非手もかして頂きたいと願っています。今晚の演奏がそれにこたえることができるかどうか、ご批判、ご鞭達をお願い申し上げます。

新 交 響 楽 団

新響・登録会員募集中

<新響の演奏を聴いてください>登録会員募集

◇新響の演奏会の御案内を毎回お送りします。

◇入場券は一割引させていただきます。

◇会員証を提示して頂けばプログラムは無料でさしあげます。

申込みは、〒160 新宿区須賀町14 大湊ビル 新交響楽団宛 ハガキにて
郵便番号、住所、氏名(フリガナ)、生年月日、ご職業、もしありましたらご所属
の音楽団体、楽器をやられる方は楽器名を付記して下さい。

きょくもくかいせつ

- 生徒 先生、今晚は。今度、著名なマアチャオーケストラである、新交響楽団の定期演奏会を聞きに行くのですが、演奏曲目についていろいろ、お聞きしたいのですが……。
- 先生 ほう、新響ならばよく知っているよ。ところで、何をやるのかね。
- 生徒 ええっと、フランツ・リストの交響詩「前奏曲」ハイドンの交響曲 101番「時計」、それにムソグスキーの「展覧会の絵」です。
- 先生 なかなかよいプログラムだね。
- 生徒 ところでリストの「前奏曲」についてですが。交響詩という変わった形式ですが……。
- 先生 そう、交響詩とはリストが最初にはじめた形式で言ってみれば四つの楽章の交響曲が一つにまとまったと思えばよいね。
- 生徒 ところでこの曲は、フランスの詩人ラマルティーヌのものによっているそうですが……。
- 先生 よく知っているね。君の言うようにリストは、ラマルティーヌの冥想詩集の一節、「人生は死によってはじまる未知の世界への前奏曲である」という部分をぬき出してこの曲の題名にしたそう。
- 生徒 ということはラマルティーヌの詩の一節を云わば音楽化したものといえますね。
- 先生 リストは敬けんなクリスチャンであったから、彼の考えていたキリスト教的死後の世界を暗示したのだろうね。
- 生徒 よくわかりました。それからこの曲はどんな点に注目して聞くとおもしろいですか。
- 先生 それはやはりリストのたくみな管弦楽法だろうね。まず弦による不気味な曲の開始、そして曲を少しずつもりあげてトロンボーンによる最初の荘大なフォルテシモの旋律にオーケストラがひびきのかぎりをつくすが、急におとずれる静寂、そしてチェロとセカンドヴァイオリンによる美しい旋律が踊るのだ、そしてそれをホルンが受けつぐ。その間のファーストヴァイオリンの分散和音は実に美しいところだからよく聞きなさい。その次は嵐が訪づれる。チェロが嵐を予告する旋律を不気味に奏したあと、オーケストラはすさまじい嵐の中へと突入する。
- しかし、それは長くは続かずにはホルンによって嵐は静まって行く。
- 次は君、美しく明るい牧場に舞台は変わるね。ホルンの牧歌的な旋律が印象的だ。
- いよいよ曲は最後のクライマックスに突入して行く。ヴァイオリンの音階的な動きの中で金管族が勇壮なひびきをくわえ、行進曲風な壮大な旋律の中、華々しいクライマックスのうちに曲はとじる。幾多のホルンのソロが聞きどころだね。嵐の部分も聞きのがせないところだ。
- 生徒 そうすると、この曲は四つの舞台があると云えますね。
- 先生 そう、何かベートーヴェンの田園交響曲を連想させる構成だね。
- 生徒 次に先生、ハイドンの交響曲 101番「時計」についてですが……。

輸入楽譜

のことなら、どんな事でも御相談ください。
管弦楽、器楽曲譜面、沢山在庫しています。

Academia Music LTD.

アカデミア・ミュージック

文京区本郷2丁目26-11

TEL. 813-6751 (代)

都電・本郷2丁目

地下鉄・本郷3丁目

先生 この曲はラジオの大学受験講座で有名になった二楽章があるね。

生徒 いつごろの作品なのでしょう。

先生 ハイドンが、有名なイギリスのロンドン・コンサートのために渡英して書いた12曲の一つとして、1794年に完成されたそうだよ。この曲をはじめ、「びっくり」や「軍隊」も二楽章に表題のような特徴があったね。古典的な四楽章でできていて、実に楽しくまたしっかりした交響曲だ。めんどくさい曲の構成を考えるより楽しく音楽を聞いた方がよいよ、君。

生徒 はい、先生。

先生 つけくわえるならば、二楽音の出だしの二つのファゴットのとばけたひびきが昔の古くさい時計をほうふつとさせておもしろいところだ。また、しかし受験生のあせりを買う意味ありげな旋律でもあるね。

生徒 僕もこれから毎晩それをきくことになりそうです。さて、最後のプログラムであるムソルグスキーの「展覧会の絵」についてですが……。

先生 君もよく知っているように、この曲はムソルグスキーがピアノ独奏用に作曲したものだが、後にラベルが管弦楽用に編曲したものだ。

むしろラベルによってこの曲は世に知られるようになったと云えよう。

おもしろいことにそれからピアノ独奏用もしくは演奏されるようになったくらいだ。

生徒 ところでこの曲はムソルグスキーが死んだ友人が画家の遺作展覧会をみたときの感動をもとにして作曲したそうですね。

先生 そう、ムソルグスキーの友人ベクトル・ハルトマンの死を悼んで1874年に作曲された。おもしろいのは、例えば作曲者であるムソルグスキーがある絵から次の絵に移るとき、その間を「プロムナード」（遊歩）と云った意味でつないでいると

ころだね。実にそれが効果的な役割を果たしているのだ。

生徒 ところでこの曲の特徴は一口に言って……。

先生 まづ実に色彩的な管弦楽法とロシアくさをうまく生かしたラベルの編曲のたくみさだろうね。この曲のピアノの原曲にも色彩感は大いだが、しかしロシアくさをものこすのは大変なことだろうね。そしてもう一つ、絵の特徴をよく表わしたその旋律だろう。実に雰囲気と色彩がよく出ている。これは、ムソルグスキーとラベルの真に天才と云えるところだろうね。この曲の最初のプロムナードのトランペットのソロは実にこの曲の開始にふさわしい印象的な旋律だ。

生徒 どういう絵について作曲したのですか。

先生 まづ先程のトランペットによる旋律が奏され展覧会場に入ると次のような絵がならんでいる。

1 「小人」地の精とも呼ばれるグロテスクな小人の絵、そしてまたプロムナード

2 「古城」中世イタリアの古城の前の吟遊詩人そしてプロムナード、ここではサクスのソロ

3 「チュイルリーの庭にて」ルーブル宮殿となりの庭で遊んだ後の子供のけんか、そして

4 「ヴィドロ」大きなポーランドの牛車、またプロムナードのあと

5 「卵のからをつけたひなの踊り」

6 「サミュエル・ゴールデンベルクとシュミューレ」金持のユダヤ人と貪しいユダヤ人

7 「リモージュの市場」市場の騒がしいおかみさん達のおしゃべり、そして

8 「カタコンブ」ローマ時代の地下墓地

9 「バーバ・ヤーガの小屋」妖婆バーバ・ヤーガの住む気味悪いめんどりの足の上の小屋

10 「キューフの大門」以上からできている

生徒 先生、今日はどうもいろいろとありがとうございました。

新響・サマーコンサート

◇曲目

喜歌劇「軽騎兵」序曲……………ズッペ
喜歌劇「天国と地獄」序曲……………オッフエンバッハ
喜歌劇「ウィンザーの陽気な女房たち」……………ニコライ
組曲「水上の音楽」より……………ヘンデル
ハンガリア狂詩曲第2番……………リスト
組曲「グランド・キャニオン」……………グロフエ

指揮：芥川 也寸志

演奏：新交響楽団

1970年8月20日(木) 19:00

於 東京文化会館大ホール (6月中旬 都内プレイガイド発売)